

# 作文指導に役立てて

塾講師向けの作文指導講習会がこのほど、朝日新聞東京本社で開かれました。元朝日新聞論説委員の白井健さんらが、わかりやすい文章を書くコツなどを話しました。



塾講師が熱心に講義を聴きました。東京中央区の朝日新聞東京本社レセプションホール



白井健さん

## 「社会の出来事 考える習慣を」

白井さんは朝日新聞の記者出身で現在、子どもからシニアまでさまざまな世代に作文を指導しています。「課題文を基に子どもが作文を書く」と、原文の引き写しが多いのは、書くことがないから。社会で起きていることについて、日常のどこかで人の意見を聞き、考える習慣を身につけることが大切」とアドバイス。わかりやすい文章を書くには、①文を短くする②重複を削る③接続詞を減らす――とし、「本文と題を一致させる訓練をしたり、他人に文章を読んでもらったりすること

が今月1日に約30塾で始まったことを受け、作文を指導する講師に役立ててほしいと開催。埼玉県や神奈川県など首都圏から約30人の塾講師が参加しました。

効果的で、考える力を身につけることにもつながる「な」と説明しました。

神奈川大和市に本部を置く学習塾「宮崎教室」では中3の塾生が毎月、白井さんの作文添削指導を受けています。塾長の宮崎智樹さんは「丁寧で具体的なコメントを読み、もう一度作文を書き直すことで、子どもたちの文章力は高まると考えています」。

この講習会は、ニュースを基に作文を書く「ニュース作文コンクール」(私塾協同組合連合会、朝日学生新聞社主催)

私塾協同組合連合会理事長の坂田義勝さんは「2020年の大学入試改革に伴い、思考力、判断力、表現力がより重視されます。講習会が各塾での作文指導向上のきっかけとなり、コンクールが児童生徒の成果につながることを期待します」と話していました。